

蘇尼特系蒙古語方音初探：子音

吉池孝一・ハス

1. はじめに

ハス(ハス)さんは内蒙古自治区・蘇尼特(スニト)右旗出身の話者である¹。蘇尼特方言の調査報告としては、孫竹 1990²および烏力吉布仁 2001³がある。他に朝格巴雅爾 1989 があるが未見。過日、ハスさんの発音を聞いたところ両報告書とは異なる部分もあるようなので「蘇尼特系」として初歩的な音系の記述を共同で試みた。『KOTONOHA』72号で母音を記述した。今回は子音の記述を試みる。

なお、発音は「簡略な」音声表記により、a, e, o のように裸で記すことにする。この簡略表記には音韻的な処理を施した部分もあるが体系を十分に考慮した上のものではない。このような表記であっても、当該方言の概略を知るといふ点に目標を限定するならば有用であろう。なお、簡略表記の説明のため、「やや精密な」音声表記を用いるが、そのような場合[a][e][o]等で示すことにする。これもやや精密な音声表記に関わることであるが、第2音節以降の中舌化した短母音は、普通には [ã] のように記されるのであるが、本稿では第1音節の母音の表記に使用した音声記号を用い[a]のようにする。また、語末子音の後に付属的な母音が聞こえるときと聞こえないときがある。この付属的な母音は [d^a] のように記すことにする。

なおこれ以後、蒙古文語形は全て Lessing (1995) に拠り、そのローマ

¹ 父母ともにスニト出身。1977年生まれ。女性。1992年までスニトの小・中学校にて学ぶ。1992年から2004年までフフトとスニトの両地にて生活。この間1995年から1999年までフフトの大学に学ぶ。2004年日本の大学に留学。なお小学校3年より正式に漢語を学ぶ。

² 孫竹 1990 には「東蘇尼特」として東スニトの語彙調査資料が一覧表としてある。ハスさんの居住地は西スニトである。西は東に比べて交通の便が良いというから、総体として西スニトの方が標準的な内蒙古方言(チャハル方言)の影響を多く被っている可能性はある。

³ 烏力吉布仁 2001, 21-26 頁。なお、なぜか論文中の調査語彙の多くは文語的なものとなっている。

字転写は()で括りそれと明示する。

2. 子音

子音の簡略表記とやや精密な音声表記は以下の通りである。

	唇音	歯茎・硬口蓋音	軟口蓋音
閉鎖音 無声	p	t	k
有聲	b	d	g
破擦音 無声		ts	tʃ
有聲		dz	dʒ
摩擦音 無声	(f)	s	ʃ
有聲	w		j
側面音		l	l ^j
ふるえ音		r	
鼻音	m	n	ŋ

注：()は外来の借用語にみられる子音

2-1. 基本子音

1. b : [b] [buda:]穀物 [bəs^ə]モンゴル服の帯
[ɔbdɾɜx^ə]悪くなる
[β ~ v] [θ β əl]冬 [ʃer β əs]鞆帯や臛
[a: β^a] ~ [a:v^a]お父さん [ara β^a] ~ [arav^a]10
[tɛ β^a] ~ [tɛv^a]50 [a β aχ^a] ~ [avaχ^a]取る
[w] [ɔwɔ:]オポー(石の塚) [dzɔwɔx]心配する
[tsɔwɔ:]生き生きした
[ϕ ~ f] [ʃuϕtu] (副詞、矢など)ぶすつと [dɔϕtʃ]ボタン
[ɟaϕsar] ~ [ɟafsar]すきま
[gaϕtɬɛ:] ~ [gaftɬɛ:]平べったい
[naϕs^a] ~ [afs^a]棺おけ [naϕtʃ] ~ [nafʃ]葉
2. d : [d] [dɜ:r]上 [ɔdɔ:]今 [ɬ:d^ə]扉 [ɔd^ə]星
3. g : [g] [gɔl]河 [gar]手 [bag^a]小さい [tseg^ə]時間

[g] [gɜr]家 [gɯ:]雌馬 [nɜg^ɜ]1 [tɜrɜg^ɜ]車
 [g~ɸ] [tɔgɔ:]~[tɔkɔ:]鍋 [tsaga:ŋ]~[tsaka:ŋ]白い
 [g~ɳ] [tɜgɜ:t]~[tɜɳɜ:t]それから (接続詞)
 [ɔgɔ:t^ɔ] ~[ɔvɔ:t^ɔ]…にあげて,

4. dz : [dz] [dzam]~[dzam^a]道 [ɔdzɯ:r]先端
 [nɛ:dz^a]友達 [gar:dz^a]出費
 5. ɟ : [ɟ] [ɟɔlɔ:tʃ]運転手 [xɯɟir]トランプ [tʃɜ:ɟ]胸
 6. p : [p] [pat ɣar^a]真っ黒な [pɪl^a]お皿
 [paɪ] (驚いて)ドキッと [pɔlɔŋ]ドボン (水に入る音)
 7. f : [f] [faʃis]ファシスト [fraŋs]フランス
 [jaʃɔŋ]日本 [fambu]緑色の厚手の生地 (<漢語の帆布)
 8. t : [t] [tɔkɔ:]鍋 [ɔ:t^a]袋
 9. k : [k] [kɪnɔ:]映画 [ɯŋkɜx^ɜ]口に含む [ɔlɔŋkɪ:]多数の
 [q] [ajaŋqa]雷 [sɔlɔŋqɔ]虹
 10. x : [ɣ] [ɣɔɪ^ɔ]遠い [maɣ^a]肉
 [x] [xɜɪ^ɜ]舌 [ɟix^ɔ]耳
 [ç] [çi:x^a]する [çi:]気体
 11. ts : [ts] [tsamts^a]ワイシャツ [tsɜ:ɟ^ɜ]~[tʃɜ:ɟ^ɜ]胸
 [ɣarts^a]目線
 12. tʃ : [tʃ] [tʃi:]おまえ [xɛ:tʃ^ɛ]はさみ [dɔŋtʃ^ɔ]ボタン
 13. s : [s] [sar^a]月 [ɛrs^ɛ]皮
 14. ʃ : [ʃ] [ʃɜ:s^ɜ]小便 [bɔɪʃ^ɛ]お墓
 15. m : [m] [maɪɸɛ:]帽子 [maɣ^a]肉 [tɔm^ɔ]大きい [am^a]口
 16. n : [n] [nam]党、静かな [nɔm]~[nɔm^ɔ]本 [ɜn^ɜ]これ
 17. ŋ : [ŋ] [mɔŋɔɪ]モンゴル [aŋɛɪ:ɣ^a] (傷口やドアなどが)開く
 [iŋɜ^ɜ]メスの駱駝 [xɯŋ]人
 18. l : [l] [lam^a]ラマ僧 [malʃiŋ]遊牧民
 [ɜmɜ:l^ɜ]鞍 [bal^a]蜂蜜
- *1の音質であるが、摩擦成分が良く聞こえる。語末では無声摩擦音を伴った無声音となり、付随する母音も無声である。
19. r : [r] [araɟɔ:]ラジオ [aɪrɔ:l]乾かした凝乳 [nar^a]太陽
 20. j : [j] [jes^a]骨 [jel^a]罪 [ajaŋqa]雷
 [dzeja:]運命、[naja]80

21. w : [w] [wa:r^a]壺、瓦 [wa:daŋ]ふろしき
[dowa:lax^a]灯りが点いている

2-2. 口蓋化子音

下に挙げた語例の内、左はチャハル方言で⁴、右はハスさんの発音。
口蓋化子音は□^jのように表記する。これによると、ハスさんの発音にはふつう口蓋化子音はみられない。

しかしながら、興味深いことに[gol^jo:]（キリギリス）という一語にのみ口蓋化子音を確認することができる。

- tʃeb^j → [tseb]足と腰骨が繋がったあたり
syb^jlan → [səβ loχ^o]世話をする、看護する
xeb^jrag → [xεβ rac^a]肋骨
em^jsgaa → [εmsɰa:]息
tem^jir → [temr]体力
xæm^jin → [xæmɔχ^o]かたづける
bed^jirʃi- → [badartʃiŋ]乞食
dæt^j → [tæd^o]鸚鵡
et^jr^jaa → [etra:]皺
get^jr^jaa → [getro:lax^a]馬をはしらせる
xen^j → [xen^e]仲間、つれ
on^jaar → [ona:r]もや、かすみ
ən^jəən → [inɜ:x]笑う
geel^j → [ge:l^e]税金
el^jaa → [ela:]やんちゃな
ul^jəən → [ulɜ:x^o]吹く
sær^js → [særs^e]葦の花の塩漬け
bor^joo → [børe:]ラッパ
εg^j → [εg^e] (植) 蒿(よもぎ)の一種(山羊や羊などが餌とする)
dεg^jn → [dεgen^e]仙女
meŋ^jgas → [meŋges^e]穴熊

⁴ 道布 1983 による。

ɛŋ^jg^j → [ɛŋg^ɞ] クラス
bœx^j → [bœx^ɞ] タバコのやに
ɕɛx^joɔr → [dzɛxɔ:r] (火打石など) 擦って火の出るもの
xaanax^j → [χa:naχ^ɞ] どこの

3. 子音の特徴

チャハル方言やハルハ方言にみられるような口蓋化子音 b^j m^j d^j t^j r^j n^j l^j は、l^j 以外には認められない。しかも l^j の例は [ɠɔl^jɔ:] (キリギリス) という一語のみである。なお、単語「精神病」はハスさんの発音では [sœlɔ:] であるが、西蘇尼特(西スト)の地で [sɔl^jɔ:] という発音を聞いたことがあるという。先に紹介した孫竹 1990 は東蘇尼特(東スト)の調査資料であり l^j 以外においても各種の口蓋化子音がみられる。烏力吉布仁 2001 は東西の何れであるか明示しないが、やはり l^j 以外においても各種の口蓋化子音がみられる。両者とハスさんとの違いが何によるものか興味深いところであり今後の課題ということになる。

蒙古文語の (j) に [dz] と [ɕ] が対応するところはチャハル方言とは異なる。例えば、[ɕaɕsar] (すきま) や [ɕed^ɞ] (槍) などがある。これはハルハ方言的と言えよう。もっとも、蒙古文語 (ç) が後続の無声子音によって有声化する。例えば [ɕus^ɞ] (血) や [ɕix^ɞ] (耳) などがある。こちらはチャハル方言的である。

〈参考文献〉

- 道 布 1983. 『蒙古語簡誌』北京：民族出版社。
孫 竹 1990. 『蒙古語族語言詞典』青海：青海人民出版社。
烏力吉布仁 2001. 「關於蒙古語蘇尼特口語語音系統」, 『內蒙古師大學報(哲学社会科学版)』第 30 卷第 2 期, 21-26 頁。
栗林 均 1989. 「內蒙古語」, 『言語学大辞典 第 2 卷 世界言語編(中)』東京：三省堂, 1426-1434 頁。
吉池孝一・ハス 2008. 「蘇尼特系蒙古語方音初探：母音」, 『KOTONOHA』72 号, pp. 11-14.